

# バングラデシュの水供給困難地域における給水施設の持続的利用のための環境教育および維持管理技術支援

ひろげる助成

3年目

実践

水利用啓発セミナー参加者 154人

維持管理技術支援 2,990人

今年度計画の達成度 70%

目標達成度 55%



ユニオン経験交流会参加の状況

## 苦労した点と工夫した点

### ■ 苦労した点

- 現地を直接訪問することが困難であったため、現地の学校現場の状況への理解が遅れた
- 定期的な集金の習慣が根付かない

### ■ 工夫した点

セミナーの授業案などのアイデアを現地NGOにE-mailで送り、できるだけ実験など直接体験を増やすよう働きかけた。関心が高いヒ素検査は生徒にも体験させた。

## 課題

バングラデシュの地下水ヒ素汚染・塩水化地域で住民主体の給水施設維持管理による安全な水利用の実現を目指し、学校現場で小中学生を対象とした水利用環境教育を行う。

## 目標

活動地域で子ども達が安全な水利用について理解し家族と問題解決に向けて情報を共有し、修繕した施設で住民主体の給水施設維持管理が行われ、安全な水が供給される。

## 活動内容と成果

活動1:活動を実施した10ユニオンすべてで地方行政関係者、修繕後給水施設の利用者住民、セミナー実施校の代表生徒・教師による経験交流会を実施し、合計154人が参加して意見交換ができた。意識が向上した生徒の意見発表が大きな影響を及ぼした。  
活動2:18か所の修繕済み給水施設を2～3か月に1回程度訪問し聞き取りにより住民の生活習慣変化の確認も実施できた。エンドライン調査では、10村60人への聞き取り調査を実施しワークショップでは42人が参加し、代表校生徒と教師も含め活発な意見交換ができた。



給水施設モニタリング風景



ワークショップで発表する中学生の様子

## 全助成期間の活動を振り返って

水利用啓発セミナーによって子どもたちの水利用に対する意識や行動が変化し、安全な水を提供する給水施設への関心が生徒を通じ各家庭にも高まった。水供給困難地域の10ユニオンで修繕した18施設は住民の手で維持管理が持続している。経験交流会では地方行政と住民、学校が持続的な水利用に向けて連携をはかることができた。今後、中学生が地域で将来に向けて主体的に行動することにより安全な水利用の持続的発展が期待できる。

| 活動地域 |  バングラデシュ

〒350-2201 埼玉県鶴ヶ島市富士見4-2-306



今後の展望

本研究グループは現地の困難な社会情勢の中、現地NGOの協力により活動を実施することができた。この活動は、水利用に関わるESDと給水施設維持管理を連携させて行うことにより将来的に安全な水供給に取り組む人材の育成を次期目標としている。学校、地方行政組織との協働を含め、「つくる責任 つかう責任」の実現が「パートナーシップで目標を達成」できるよう、安全な水利用の持続的発展を目指す。